都市再生整備計画 事後評価シート 府中地区

平成30年 3月

広島県 府中市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	広島県		市町村名			府中市			地区名			府中	中地区	面積	99.40ha	
交付期間	平成25年度~平成29年度				平成29年度		交付対象事業費		5,163.4百万円		国費率	0.5				
			事業名													
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業 提案事業		(市)府川11号線、(市)府川府中3号線、(市)広谷出口大黒線(1工区)、(市)府中8号線、(市)広谷出口大黒線(2工区)、(市)高木鵜飼線、はじまりの広場、(市)元町出口14号線、(仮)府中市地域交流センター、府中公衆トイレ、(仮)府中市母子支援センター、(仮)府中市民病院、(仮)府中市地域交流センター整備事業(貸店舗)、みんなの公園、府中駅西広場道の駅トイレ、(仮)POM子育て世代活動支援センター													
			事業名						削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	当初計画	基幹事業	(仮)府中市	母子支援セ	ンター				厚生労働省の定める母子福祉センターの事業内容が、市が想定してい			、市が想定して	整備計画からは削除するが、母子支援センターは当初計画通り建設するため、指標への影響はない。			
	から 削除した		,,						る事業と異なっていたため、事業を削除。							
	事業	提案事業												·		
	新たに追加し 基幹事業 た事業		(市)府川2号線、(市)府川3号線、(市)難飼23号線、鵜飼西公園、道 (観光交流センター)、道の駅(地域交流センター)、道の駅(商業施語						設) 点機能の向上による賑わいの創出を図るため、事業を追加。				! 道路整備より、まちなか居住が6件増えるため、ぐるっとパスの乗客が1名増える、よって「府中ぐるっと パス」平均利用者数目標値119人/日を120人/日とする。			
		提案事業							•					•		
	交付期間 当初 の変更 変更		平成25年度~29年度 交付期間の変動													
			<u> </u>			指標、数値目標への影響										
		指 標		単位	従前1	直 基準年度	目標	値 目標年度	数 モニタリング	値 評価値	目標 達成度	1年以内の 達成見込み			フォローアップ 予定時期	
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況				半世		基华牛及		日信牛皮	モニタリンツ	計加旭	连队反	建 成兄匹の	・道の駅の整備や公共交通機能強化によりまちの賑	わいが創出され、歩行者数が	」,在时期	
	指標1	通りの歩行	者数(休日)	人/日	2,206	H24	2,700	H29		3,857		あり - なし -	増加した。 休日は定期的にイベントが行われており、府中駅や 辺を周遊する人が増加した。 道の駅の情報発信機能により、来訪者が集客力の 芳し、歩いて移動する人が多く見られた。 ・道路整備や憩いの空間やイノを配置することで、多 したことで、ウェーキングをしながらまちなみを楽しむ。	道の駅と地域交流センター周 高い周辺イベント情報をキャッ で心して歩行できる空間を創出 人が増加した。	平成30年10月頃	
	指標2	通りの歩行者数(平日)		人/目	7,306	H24	8,000	H29		8,052		あり - なし -	・地域交流センター整備事業や道の駅の整備、公共3 わいが創出され、歩行者数が増加した。 ・・・・道路整備や憩いの空間やトイレを配置することで、多 したことで、ウォーキングをしながらまちなみを楽しむ。	そ心して歩行できる空間を創出	平成30年10月頃	
	指標3	「府中ぐるっ 利用者数	とバス」平均	人/日	45	H24	120	H29		96		あり - なし -	・路線再編等の遅れ等により、目標の達成には至らなて、道の駅を整備し、バスロケーションシステムや左ぼり利用者数は増加した。 ・PR等により徐々に認知されており、利用者数は増加のPR等を行うことで、さらに利用者数は増加する見込ったおまでパスが走っていなかった地区でも運行を開きに寄与している。	到りのバスルートを導入し、平 している。継続的にパスルート ∆である。	平成31年4月頃	
	指標4	商業集積地 業の数	における商	店舗/年	241	H24	257	H29		216	×	あり - なし -	・経営者の高齢化、後継者難、周辺市町への購買力: 上に店舗が減少したため、目標の達成には至らなか ・道の駅や地域交流センターの整備により、店舗が選 ・まちなか繁盛隊等の団体がまちゼミ等の活動を実施 ・ 継続に一定の効果を挙げている。	った。 加した。	平成31年12月頃	
	指標5	地域に開放 づくりイベン 数		回/年	5	H24	12	H29		30		あり - なし -	・府中市民病院の改築に伴い地域に医療・介護・福祉 え、アウセス道である1市。高本鶴銅線で1市)広会山 一層利便性が向上し、イベントの開催が容易になった りの普及啓発等と相まって効果が発現したものと思れ ・地域の住民が芦田川沿いを中心にウォーキン学等 康づくりの意識容易が成されている。 ・府中市民病院に医療機能の何とにより、地域医療 連携した健康づくり研修も実施されている。 ・府中市民病院にの利用者数が増加しており、イベンド していると考えられる。	コ大黒線(2工区)の整備により ため、行政が進める健康づく いれる。 とおこなっており、日頃から健 の拠点となっており、医師会と	平成31年4月頃	
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況		指 標			従前(目標		数		目標	1年以内の			フォローアップ	
	その他の 数値指標1		道路の満足	<u>単位</u> %	33	基準年度 H23		目標年度	モニタリング	評価値 46.0	達成度「	達成見込み	(総合所見) ・幅員の拡幅や沿道へ憩いの空間やトイレなどのできる空間が形成されたため、歩行者の満足度:		予定時期 平成30年夏頃	
	その他の 数値指標2															
・道の駅は商業施設のほかパスロータリーも整備され、高速パスや周辺集落部と市街地を結ぶ路線パス、市街地を循環するパスが発着し、公共交通の結節点として、歩いて暮らせる地域の形成に寄与している。 ・地域交流センターは多くの人が来場し、府中駅北側の賑わい創出に寄与している。 ・多様なイベントを適して、多世代の交流が広がっている。 ・整備した広場等を活用して、住民団体等が様々なイベント等を行い、まちの賑わいや担い手育成に寄与している。																
5)実施過程の評価				実施内容						実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリ	ング	なし					都市再生整	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス		地域住民の意向を踏まえた事業を進めるため、府中駅南地区都 市再生整備事業に関する説明会を実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後	今後も、事業を行う際は、住民の意見を幅広く聞き取り、官民一体となったまちづくりを推進する。				
	持続的なま 体制の		地域生活基盤施設として整備した「みんなの公園」を活用した、 多世代の交流活動等の取組を実施した。					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				イベ	イベントに限らず、様々な取組により、地域の憩いや賑わいを創出できる空間を形成する。			





まちの課題の変化

今後のまちづくり

の方策



・中心市街地等と周辺集落を結ぶとともに、生活拠点機能の維持・向上させるため、循環パスや高速パス等が発着する道の駅や地域交流センターの整備等により、賑わいあるまちづくりをおこなった。一方で、JR府中駅をはさんだ南北の賑わいの分断やまちなか駐車場不足等の課題が残されており、南北の交流による、一体的な賑わいの創出や新たな駐車場整備等に取り組む必要がある。

鵜飼西公園整備事業

(市)鵜飼23号線整備事業

■基幹事業

JR鵜飼駅 >

(中心拠点誘導施設)

凡例

基幹事業

提案事業

関連事業

府中市民病院

■基幹事業(道路

(市)高木鵜飼線

・都市全体の魅力を創出するため、公共下水道事業や地域交流センターの整備により、生活環境の向上や既存の地域資源を活かしたまちづくりをおこなった。

・道の駅の整備により、鉄道路線をはさんで、人の往来が急増した。周遊性を高めるため、周辺道路とのアクセス性の強化が必要となった。

【効果を持続させるための基本的な考え方】

・整備された公園・広場を継続的に利用し、賑わいの創出を図るため、適切な維持管理を行う。

■基幹事業(道路)

○関連事業

(市)府川11号線(広場を含む)

公共交通利便増進プロジェクト

· 今後も、多世代交流や健康づくりなどに関する、更なる取組を推進する。

府中市母子支援センター

・少子高齢化の進展が見込まれるなか、誰もが安心した暮らしを送るため、医療の拠点となる府中市民病院の機能強化を図る。・継続的な健康づくりを行うため、現在実施している様々な支援施策を継続していくとともに、周辺住民が健康づくりに 関わる取組を検討する。

・道路整備より形成された安心して歩行できる空間の適切な維持管理を行うとともに、生活支援機能を結ぶ道路についても安心して歩ける道路整備を進める。

(改善策を含む) 【改善策の基本的な考え方】

・既存ストックを活用し、まちなかの賑わいを創出する。

〇関連事業

・高齢者等が安心して生活するため、道の駅や鉄道駅と府中市民病院を結ぶ循環バスの利用促進を図る。

·JR府中駅をはさんだ南北の交流を促し、中心市街地の賑わいを創出するため、JR府中駅周辺の拠点機能の強化やJR府中駅と道の駅を結ぶ南北軸となる歩行者ネットワークを形成する。

市役司